

特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 令和7年度 第1回理事会
議事録

会議名: 令和7年度 第1回理事会

日時: 令和7年6月26日(木) 18時30分～

場所: オンライン会議

出席者:

- **理事:** 石田直章(理事長)、井岡雅子、柿崎裕彦、遠藤華英、(欠席: 徳永大作)
- **監事:** 中元伊知郎
- **その他:** 吉田進(強化委員会)、吉田寿子、中村晃子、吉田彫子、佐藤勇介
- **議事録作成者:** 佐藤勇介

1. 開会および議事録署名人の選任

1.1. 開会宣言

定刻、石田直章理事長が開会を宣言し、出席者に対し、連盟の未来に向けた活発な議論を期待する旨を述べた。

1.2. 議長、議事録作成者および議事録署名人の選任

本理事会の議長は、石田直章理事長が務めることが確認された。続いて、本理事会の議事録作成者として佐藤勇介氏が、議事録署名人として井岡雅子氏がそれぞれ選任され、被選任者はこれを承諾した。以上の手続きをもって、本日の議事が正式に開始された。

※定款により2名の議事録署名人が必要なため、後日遠藤華英氏が選任された。

2. 審議事項および報告事項

2.1. 議題1: 令和6年度 決算報告

2.1.1. 報告内容の要約

中村晃子氏より、令和6年度決算について、以下の通り報告がなされた。

- **貸借対照表の主要な変動点**
 - **工具器具備品:** 「DENBA JAPAN」より治療器具を購入したことに伴い、資産が増加した。
 - **未収入金:** 助成金の入金時期が期ずれすることによるもので、例年並みが計上されている。
 - **短期借入金:** 決算期末(3月末)時点で残高あり。
- **損益計算書の概況**
 - **売上高:** 前年度と対比し減少傾向。主な要因は、受取助成金および協賛金の減少による。
 - **販管費:** 大会開催や海外遠征の減少に伴い大幅な減少となった。
 - **当期純損失:** 売上高は減少したものの、販管費の削減幅がそれを上回ったため、当期純損失額は前年度よりも縮小した。

また、販管費の中で特に金額の大きい「外注費」は事務委託費や大会の音響配信費等が、「旅費交通費」はジョージアワールドカップへの遠征費や国内大会、合宿等に関連する費用が大部分を占める旨の説明があった。

2.1.2. 質疑応答と審議の概要

決算報告に対し、以下の質疑応答が行われた。

- 井岡氏: 人件費と交通費について2つの質問があった。
 - 1, 事務局スタッフなどの人件費が、一般的な事務費ではなく「委託費」として計上されている会計処理について、その詳細と理由を伺いたい。との質問。
それに対し、助成金の費目規定において、事務委託費として処理していることが説明され、その会計処理について理解が示された
 - 2, 決算報告において旅費交通費が多額となっていることについて、その内訳は、国際大会、国内大会、および合宿などの遠征費で構成されているか確認を求めた。
それに対し、旅費交通費は、主にジョージアでのワールドカップなどの国際大会遠征費、国内大会、そして通常の練習会や国際育成プロジェクト合宿などの費用で構成されているとの説明があり、その内訳について理解が得られた。
- 吉田進氏: 短期借入金の計上額について質問し、報告された金額が3月末時点のものであることが確認された。

2.1.3. 決議

以上の質疑応答を経て、本議案の承認を諮ったところ、全会一致をもって承認された。

2.1.4. 財務基盤に関する討議

決算承認後、短期借入金に関連し、連盟の財務基盤に関する討議が行われた。

- **資金繰りの構造的問題:** 吉田彫子氏より、助成金の多くが精算払い（事業実施後の後払い）であるため、事業費の支出時期との間にタイムラグが生じ、特に大規模な大会が開催される年度末（2月～3月）には資金不足に陥りやすい構造的な課題があるとの説明がなされた。
- **恒久的な対策:** この課題を根本的に解決するためには、使途に制約の少ないスポンサー資金の獲得が最優先事項であるとの認識が共有された。
- **金融機関からの借入の進捗:** 石田理事長より、自身の在任を条件として地元金融機関から連盟名義での融資が可能であるとの回答を得ている旨の報告があった。しかし、これはあくまで一時的な対策であり、恒久的な解決策ではないとの見解が示された。

これらの議論を通じて、連盟の持続的な活動のためには、安定した財務基盤の構築が不可欠であり、引き続き重要な経営課題であることが確認された。

2.2. 議題2：監査報告

中元伊知郎監事より、以下の通り監査報告がなされた。

「特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟の第11期（令和6年4月1日

～令和7年3月31日）決算報告書および関連書類を監査した結果、いずれも適正に処理されていることを認め、ここに報告いたします。」 理事会は本報告を異議なく承認した。

2.3. 議題3：令和7年度 予算案

本案は、選手強化、大会運営、組織基盤整備といった戦略的優先事項に対する資源の最適配分を目的として策定された。

2.3.1. 予算案の概要

吉田寿子氏より、令和7年度予算案について以下の通り説明がなされた。

- 収入の部
 - 各種登録費
 - 助成金
 - 協賛金
- 支出の部
 - 加盟・負担金
 - 事業費：選手強化費、大会開催費、体制整備費、普及関連費等を計上。

2.3.2. 質疑応答と審議の概要

予算案に関し、以下の質疑応答および議論が行われた。

- 資金繰りの継続課題：前年度の助成金精算払いをもって当年度の短期借入金を返済する構造は変わらず、今年度も同様の資金繰り問題（いわゆる「自転車操業」状態）が発生する見込みであることが確認された。この状況を脱却するためには、使途に制約のない協賛金・スポンサー資金の確保が不可欠であるとの認識が改めて共有された。
- 協賛金の見込みと予算案の取り扱い：予算書に計上されている協賛金額は3月時点のものであり、その後のマーケティング活動により、実際の獲得見込み額はこれを上回っている旨が報告された。助成金申請等の提出期限を考慮し、本理事会では外部提出用として当初案を承認する一方、最新の協賛金獲得状況を反映させた予算資料を別途作成し、内部管理用として共有する方針が確認された。

2.3.3. 決議

以上の質疑応答を経て、令和7年度予算案の承認を諮ったところ、全会一致をもって承認された。

2.4. 議題4：上半期活動報告およびその他協議事項

各委員会の活動報告は、連盟全体の事業進捗を多角的に把握し、部門間の連携を強化することで、組織目標の達成を促進することを目的とする。

2.4.1. 各委員会からの活動報告

- マーケティング活動（報告者：佐藤勇介氏） スポンサー獲得は進捗しているものの、既存の繋がりや選手の所属企業からの支援が中心となっている。今後は、新規スポンサーの開拓、および使途の自由度が高い資金の獲得が重要な課題であるとの

報告があった。

- **地域普及・広報活動（報告者：吉田彫子氏）** 鳥取県での普及活動を皮切りに、西日本での活動を本格化させる予定である。また、マーケティング活動を後押しするため、プレスリリース等を活用した積極的な情報発信に取り組んでいるとの報告があった。

2.4.2. 事務局からの報告・協議事項

吉田彫子氏より、連盟のガバナンスと将来に関わる以下の重要事項が提起され、協議が行われた。

1. **発注業務の適正化:** 監査からの指摘を受け、特定の業者へ継続的に発注を行う際には、企画書や発注書等の書面を整備し、意思決定プロセスの客観性と透明性を確保する必要があることが報告された。
2. **事務所所在地の変更可能性:** 3～4年後を目途に、新施設へ事務局が移転する計画が共有された。新施設の住所は登記上の所在地として使用できないため、バーチャルオフィス等の利用を今後検討していく必要がある。
3. **次期理事長の選任について:** 石田理事長が定年を迎えるにあたり、次期理事長の選任が喫緊の課題であることが提起された。あわせて、役員の任期についても議論され、定款上は再任を妨げないものの、10年が一つの目安であるとの見解が共有された。
4. **協賛金の使途に関する方針:** 助成金では賄えない活動（例：海外関係者の接遇費用）に対応するため、使途に制約の少ない協賛金の適切な執行に関する規定の必要性が議論された。ガバナンス強化の観点から、交際費等に関する明確な基準（一人当たりの上限額など）を今後整備していく方針が確認された。

2.5. 議題5：強化委員会報告

強化委員会の報告は、国際的な競技動向やルール変更を的確に把握し、選手の競技力向上に向けた戦略を策定・実行する上で極めて重要である。吉田進氏および吉田寿子氏より、先般の北京ワールドカップからの報告と、今後の強化方針について以下の通り報告がなされた。

2.5.1. 国際ルールの動向

新ルールで導入が示唆されていた「バーストップシステム」は未だ実装されていなかった。一方で、試技における胸での静止判定は厳格化される傾向にあり、この国際基準を国内大会の審判基準にも反映させていく方針が示された。

2.5.2. 世界選手権への選手選考方針

選手選考は、定められた標準記録を基本としつつも、記録に到達していない選手についても、その成長性やポテンシャルを個別に評価し、柔軟な選考を行う方針が示された。

2.5.3. 次期全日本選手権の構想

今回の全日本選手権は P-United に加盟する他のパラスポーツ団体と連携したイベントを

同時開催する構想が報告された。

3. 閉会

以上をもって、本理事会で審議・報告すべき全ての議事が終了したことを確認し、石田直章理事長が閉会を宣言した。

4. 議事録署名

以上、本理事会の議事の経過及びその結果を明確にするため、議長及び議事録署名人がこれに署名捺印する。

令和7年10月30日

議長（議事録署名人）

石田 直章



議事録署名人

井岡 雅子



議事録署名人

遠藤 華英

